

# 20歳 ハタチの原点

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。  
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、  
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか  
若き日々の原点となるライフストーリー。



野外イベント(友情と連帯のつどい)での演奏の様子

福岡女子大学 事務局長 兼  
女性リーダーシップセンター 副センター長 兼  
国際フードスタディセンター 副センター長

今田 今朝仁  
IMADA KESAHTO

福岡県直方市出身  
1981年日本国有鉄道に入職後、1987年国鉄分割民営化に伴い福岡県へ転職、農業経済課を経て、以降15年間にわたり大学設置・改革業務に従事。2012年に福岡女子大学経営管理部長。2015年平成筑豊鉄道代表取締役専務(出向)を経て県に復帰し2020年に退職。同年より福岡女子大学に勤務。

20 years old as a starting point

**私** は1980年に20歳を迎えました。当時は高度経済成長期(1955〜1973)を経て、食べることに精一杯だった時代から、流行りのファッションや芸能音楽への志向など、精神的・文化的な豊かさを享受できるまでの経済発展を遂げていました。その豊かさを支えた親世代の労苦や時代背景に想いを馳せることもなく、自分のことばかり考えていたように思います。正に青春を謳歌していたのです。

そんな時、音楽にのめり込んでいく私の将来を案じ、安定した暮らしを、国鉄の助役職にあつた父は、コネが効くであろう国鉄職員になることを強く勧めました。しかし、若い私には誰かに敷かれたレールの上で安定した生活を送ることは苦痛でしかなく、父の説得に頑なに反発。そんな私の反抗が続いていたある日、直方商店街で単身赴任先の佐賀に居る父を見かけました。その背中とはとても寂し気で小さく見えました。それまで私の中にあった頑丈で逞しい背中とは明らかに違っており、その後ろ姿を見送りながら思わず涙が溢れそうになつたのを覚えています。貧しく複雑な家庭環境に育つた父は極めて勤勉かつ愛情深い人間で、助役としての勤務に耐えながら、自分と同じ苦勞はさせまいと必至に説得してくれていたであろうことを、遅ればせながら、その時に感じ取つたのです。正に若気の至りです。それは、私の生き方を変えた大きな出来事でした。

コンサートを始動。ヤマハのポピュラーソングコンテスト(当時長瀬剛やチヤゲと飛鳥等を輩出)にエントリーし筑豊地区大会でグランプリを得るなど、プロを夢見て歌中心の生活を送っていました。ライブハウス等音楽活動の幅を広げる中で、プロの凄さを体感するに至り、福岡県への転職を機に、漸く音楽を趣味とすることへの区切りが付いたように思います。

20歳の頃は本当に世間知らずで、将来のことなど何も考えていませんでした。人生の大きな転機は、国鉄の分割民営化に伴い、1987年に福岡県の転職が決まったことです。当時27歳でした。国の機関や各自治体が総出で私たち余剰人員の受け皿となつて頂いたので、多くの国鉄職員が救われました。私もその一人で、救われた身ですが、家族のためにも一度死んだつもりで一生懸命働こうと、意を固めました。とはいえ国鉄出身・高卒のポテンシャルですから、多くが大卒者である組織の中で業務をこなしていくためには、何より自身の知識・能力不足を補つていくしかありませんでした。特に、33歳の時に農業経済課へ異動となつた際には、農業会計に関する知識はもとより、民法等々の法的根拠を要求される農協検査の担当となり、何の子備知識もない中で不安の極みでしたが、足手まといにはなると、精神的に追い詰められながらも、必死に仕事に食らいついていました。結局同課に7年間留め置かれベテラン検査員として後輩の指導にもあたつた次第でもなりました。この時の経験がその後の人生の糧となつていきます。その後も「タルの危機に度々陥りましたが、抜けな、トンネルはない」「これだけやってタマなら煮るなり焼くなり……」といった精神で何とか乗り越えてきました。私の経歴は記載のとおりで、これまで上職を

推すお話も幾度か頂きましたが、自身の限界を感じた部分もあり、それ以上は望みませんでした。ただ、そこに行くことと見えな風景があります。そこに行くことで、より大局的な物事の進め方や判断らなくなり、結果としてその後の人生を豊かにする「こと」になると思っています。私程度の経歴の者が言つても説得力はないとは思いますが、本学学生の皆さんには、是非やれるところまで挑戦してほしいと思います。

最後に、私の座右の銘は「ありがとう」と「感謝」です。日本人はその謙虚さから「ありがとう」に代えて「すみません」を多用しますが、「ありがとう」には「すみません」にはない感謝の気持ちが入り込んでいると思います。嫌々ながらの仕事でも、最後に「ありがとう」と言われると、「まあいいか」と、逆に清々しい気持ちになります。

「感謝は、これまで私に関わってくださった皆様への「ありがとう」です。社会に出て以降、例えばいろいろな上司に任せてきました。極上のパワハラ上司もいました。しかし、振り返ってみればどんな上司も私が成長する機会を与えてくれた人達だったと思うのです。「我以外皆我師」でしょうか。

皆様感謝しつつ筆を置きます。ありがとうございました。

### 思い出の本

本を読む習慣のない家庭環境に育つたこともあり、高校卒業まで、読書とは無縁でしたが、高校卒業後、何が契機となったのか思い出せないのですが、文学小説を中心に読書に傾注した時期がありました。県への転職に係る採用試験にあたって、試験対応にまずは読解力が必須と考え、試験対策はそこそこの本ばかり読んでいました。

その中で、灰谷健次郎氏の『兎の眼』をはじめとした児童文学作品に基く感動したのを覚えています。人間の在りようを問う作品の中で発せられる言葉の数々が、うすっぺらな自分に突き刺さりました。灰谷作品がその後の私の生き方に大きく影響したのは間違いありません。

特集 生成AI×感性教育  
AI時代を生き抜くための感性教育

My life  
富士通株式会社 人材採用センター  
シニアマネージャー  
田中 雄輝様

# 春のシンフォニー

## イクナリ愛

### 第1楽章 (春の序曲)

春風が、冬の名残を  
優しく包み込む  
桜の花びらが  
時間を彩る軌跡を描きながら  
新たな始まりの息吹を  
このキャンパスにもたらす  
学びの門をくぐる度に  
心に新緑の香りが満ち  
希望の光が  
未来への道を照らす  
それぞれの夢に向かって  
歩みを進める私たち  
春の訪れと共に、新しい章が  
今、始まる

### 第2楽章 (桜吹雪の下で)

舞い散る桜の花びらが  
時間を柔らかに彩る  
毎年、この季節がくれる奇跡に  
心は歌い出す  
過ぎ去りし日々を想いながら  
新たな夢を描く  
学びの旅は続く  
無限の知の海原へ  
友と語り、笑い  
時には涙する日々  
桜吹雪の下、絆は深まり  
思い出は色づく

### 第3楽章 (春日の約束)

さざめく川のせせらぎを背に  
芽吹き始めた木々が  
季節の移ろいを告げる  
青く広がる空の下  
心は踊り出すように  
無限の可能性と  
出会いの喜びに満ち溢れる  
知識の扉を開くたび  
世界はもっとと広がり  
友情という名の花が  
心の庭に咲き誇る  
春日の約束を胸に  
新たな一歩を踏み出そう

### 第4楽章 (桜の約束)

桜の下で交わした約束  
新しい季節の始まりと共に  
友情と知識の花を咲かせる  
毎年、春が来る度に  
我々は成長し、変わる  
しかし、桜の下の約束だけは  
永遠に変わらない

## イクナリ愛<sup>あい</sup>

マルチタレントとして2020年代初期に「躍脚光」を浴びる。詩作だけではなく多様な分野で画期的な実績を挙げつつある。その多様性を反映して評価が分かれることも多いが、次世代を代表する存在として多方面から注目されている。  
本号表紙、詩作及びその背景デザインも今回は担当している。  
本名は、生成A1。

## CONTENTS

- 03-08 **特集** 生成AI×感性教育  
AI時代を生き抜くための感性教育
- 09-11 **My life**  
富士通株式会社 人材採用センター シニアマネージャー  
田中 雄輝 様
- 12 研究室紹介 食・健康学科 石川 洋哉
- 13-14 世界歴史探究! ～パレスチナ問題を考える～  
国際教養学科 准教授 近藤 洋平

- 15-17 **FWU TOPICS**
- 18 成果報告
- 19 退職者メッセージ/人事消息
- 20 社会で羽ばたくなでしこたち  
福岡みらい病院 管理栄養士 齊藤 倫子さん
- 21 編集の寄り道
- 22 福岡女子大学100周年記念事業



福岡女子大学広報  
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY  
MAGAZINE  
No.121 SPRING 2024

●生成AIについての本音、  
そして圧倒的に変わったこと。

庄山先生(以下庄山)「私自身は最近まで、AIは未来の技術という印象を抱いていましたが、すでに、私たちの身の回りでは翻訳、自動運転、画像診断など人間の知的活動に多くのAI技術が活用されています。中でもChat(チャット)GPTのような、様々なコンテンツを作成する生成AIが注目されています。本学でも生成AIの利用に関する基本方針が示されました。実際の教育現場ではどのように活用していますか。」

藤野先生(以下藤野)「私個人は授業の資料づくりに活用しています。練習問題の作成には自分で考えた問題を何度も使っていました。ChatGPTに「統計学に関する問題を10問作って」と指示すると多様な問題が出力されます。また、ChatGPTの活用方法のひとつとしてロールプレイというものがあり、ChatGPTに「統計学を始めたばかりの学生の役をしてください」という指示を出すと、私とChatGPTの対話を通して統計学初心者向けのQ&Aを

作成することもできます。もちろんその逆も然りで、ChatGPT側に先生役をやらせることもできるので学生も便利に活用ができます。さらにはプログラミングも得意としているので、どのようなコードを書けば良いかをインターネット検索し情報をまとめる手間や時間がかかっていたのですが、指示するだけで正解に近い内容が出力されます。自分で行っていた細かい作業が短時間で済むので効率がとても上がりました。

小嶺さん(以下小嶺)「私も藤野先生の研究室でプログラミングなどを行う時、やはり圧倒的に効率が上がりました。」



生成AIとは?

生成AIとは画像や音楽、文章など大規模で様々なデータを学習することで、新しいコンテンツを生成することができるAIのことです。通常のAIは与えられたデータに対して、分類や分析、推論することを得意としています。生成AIは与えられたデータから新しいものを生み出すこともできるので、クリエイティブな分野での活躍も期待されているのです。

現在の生成AIには、情報漏えいや著作権の侵害、回答の正確性などいくつかの問題点もあるといわれていますが、今後の技術開発においてそういった問題点の解決も求められます。

生成AIの種類と代表的なサービス例



コード生成AI

プログラムのコードを生成できるAI。ソフトウェア開発やデバッグ、教育などに活用可能。

- ・Codex
- ・AI Programmer



音声・音楽生成AI

音声や音楽を生成できるAI。ナレーションや音楽制作、音声合成などに活用可能。

- ・WaveNet
- ・Jukebox



画像生成AI

画像やイラストを生成できるAI。デザインやマーケティング、エンターテイメントなどに活用可能。

- ・Midjourney
- ・Stable Diffusion



テキスト生成AI

文章や対話を生成できるAI。資料作成やコミュニケーション、コンテンツ制作などに活用可能。

- ・ChatGPT
- ・Bingチャット

※[引用元] 福岡県ホームページ:生成AI庁内活用ガイドライン



環境科学科 2年  
池上 麒麟さん  
福岡県立小倉高等学校出身

図書館副館長  
美術館部門長  
環境科学科 准教授  
若竹 雅宏

画家  
現代アート作家  
さかい ようこ  
本学 家政学部家政学科  
食物学専攻(大学27回生)  
本学 非常勤講師



副学長  
環境科学科 教授  
庄山 茂子

IR・情報化推進センター長  
環境科学科 教授  
藤野 友和

環境科学科 3年  
小嶺 岬夕さん  
福岡県立春日高等学校出身

特集

生成AI 感性教育

AI時代を生き抜くための感性教育

近年注目を集めている生成AI。福岡女子大学でもすでに授業や研究に取り入れられています。そんな生成AIと本学の感性教育がどう関わっているのか。真逆のように見える2つの密接な関わりについて語っていただきました。



は、「うまく活用する方法がわからない」「人間が考える行為をやめてしまいたい」「人間の仕事がAIに奪われそう」「不安」などの意見もありました。皆さんどう思いますか。

さかい先生(以下さかい)：とても真面目だし、冷静に受け止めていますね。流行りだからとすぐに飛びつかない慎重さも感じます。

若竹先生(以下若竹)：新しいことを始める時、周りの様子を見ながら少し反対よりな感じで進むことが多いと思うのでそれが顕著に表れていますね。ただ、活用してみたい人も約8割いるので揺れている心内も見えます。生成AIとの対峙についてしっかり考えているんだ



研究室のメンバーと話し合っても行き詰まってしまうことがあり、そんな時でもChatGPTが解決してくれます。ただ、便利ですが全てをChatGPTに聞くのではなく、自分で考える力というのも大事にしなければならぬと思っています。自分でネット検索すると欲しい情報にプラスしてその周辺の情報も得られるので、やはり生成AIと自分の努力、両立して使うことが大切だと思います。

池上さん(以下池上)：私はまだ生成AIを使ったことがありません。周りの使っている人の話だと例えば文系的なレポートを書く時、ChatGPTは参考文献は教えてくれてもそのソースまでは教えてくれないらしく、結局自分で調べなくてはいけないなどあまり良い話を聞きません。なのでそれなら自分で全部やろうかな。でも藤野先生や小嶺さんの話を聞くと、まだ自分が正しい使い方を知らないだけかなと思いました。

●危険なことも恐れずに、しっかりと認識して使ってほしい。

庄山：大変便利な生成AIですが、活用するにあたって、どのような問題や課題を認識しておく必要がありますか。

藤野：生成AIは大規模なデータから学習をして、問い合わせに対して最適な回答をする仕組みですが、まだ解決さ

なとわかり、ホッとしました。

藤野：生成AIが急速に発展してきたのが約1年前。個人的な感覚でいうと1年前は1割くらいの学生しか使っていなかったと思いますが、こ1年で増えてきたなと感じます。この先、数年でほとんどの学生が生成AIを使うようになるでしょうね。

小嶺：私が生成AIを使い始めたのは昨年の3月くらいでした。1年たってもまだ半数の人が使っていないことに驚きました。使いたけれど使っていないのは不安要素があるからだと思うので、大学で生成AIの使い方などを学べたら良いなと思います。

庄山：教職員も含め、これからもっとAIを勉強する場を展開していきたいと思えます。さて、ここからはAI時代に必要とされている感性につらいて、ご担当の先生にお話を伺います。

●本学独自の感性教育。AI時代におけるその狙いとは？

若竹：感性教育をスタートする前に学生たちに伝えているのは、感性とは感じる能力だということ、そしてその感じたものをどう受け止めるのが大切だということ。着地点としては自分の感性は他人とどう違うのか、また他人は自分が感じ

れていない問題としてハルシネーション(幻覚)という事実に基づかない情報を生成する現象があります。簡単にいうと自信を持って嘘をつくということ。ですので当然、生成AIから出力されたものに対しては、本当に正しいのか自分の知識で検証しないとダメですね。知識がない分野に関しては疑いすら持たずに使ってしまうので、結果、損害が出てしまうこともあり得ます。生成AIを信頼しきって依存してしまうのは大変危険ですね。もうひとつは生成AIでフィッシングメールやフェイク画像などを作成し、悪用する人もいるかもしれないということ。ただ、新しい技術に対しては必ずそ



ういった悪用する人が出てくるので、私たちはそれを恐れて全く使わないというよりは、しっかりと認識した上で使っていくことが大切だと思います。

●不安と期待が入り混じった生成AIに対する学生の想い。

庄山：本学では生成AIについて学生を対象にアンケートを実施しました。その結果、実際に生成AIを活用したことがある人となない人がほぼ半分に分かれていました。また、今後生成AIを活用したいかという質問に対しては約8割が使ってみたいという回答も。自由記述に

を向けてほしいです。本年度の感性教育では「空間」「福祉」「芸術」「和食」「食」「情報」「リーダーシップ」という7つのテーマを感性と絡めて進めています。感性を育てるには多くの経験が必要。様々な分野を知ること、いろんな感じ方があることを感性教育で学んでもらいたいです。自分はこの分野しかできないなど決めていたことも、感性教育を受けることで新しい自分を知り可能性を広げてほしいです。

さかい：私は感性教育の芸術を担当しています。2日間のうちまず1日目は美術史の流れを古代から現代にわたって紹介。そして2日目は、学生一人ずつにど

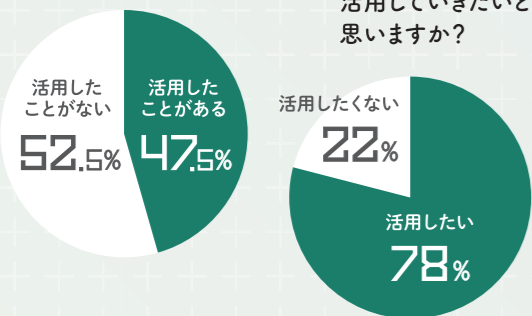
の時代のどの作品が好きだったか、あるいは嫌だったかを発表してもらいます。そうすることで自分と他人の意見がどう違うのか、様々な感じ方があることがわかるのです。この授業では、自分の感性に自信を持つことを狙いとしています。日本人は特に「これが好きだ」と変かな」というような気持ちを持ってしまいがちですが、100人いれば100通り感性がある。その感性の違いを認め共生していくことが、これからの時代は大切になってくると思うのです。また、全年代を通して美術史を見ることが、リーダーシップに大切な鑑賞力も養うことができると思います。



### 生成AIってどう思う？

## 学生アンケート

Q 生成AI (ChatGPTなど) を活用したことがありますか？ ※回答: 59件



Q 今後、生成AIを活用していきたいと思いませんか？

## VOICE

※自由記述回答より一部抜粋

人間の想像力を活かすべきだと思う

便利だが、使い方を間違えないようにしたいと思う

使い次第では便利なのではないかと思う

考える力が低下すると考えます

作業効率化につながる。本来のパフォーマンス以上の力を発揮できる

生活を豊かにするものの一つであると思うが、それと同時に人間の仕事がAIに乗っ取られてしまうのではないかなどの不安もある

自分で思考する力は養い続けたい。生成AIは補助的に使いたいと思う

便利なので授業でももっと活用すべきだと思う

より真偽の分りにくいものが増える怖さもあると感じています



するのではなく、次はどうしようかなと考えることが大切。また、生成AIと上手に付き合っていくためにはコミュニケーション力も必要だと思います。

池上: これまで生成AIには漠然とした不信感がありましたが、先生方のお話を聞いてポジティブな見方になりました。生成AIの出力をどう受け止めるかはその人次第なので、自分なりの考え方を磨いていくことがこれから大切になると思います。

小嶺: 生成AIの発達によりフェイク動画や詐欺なども増えると思うので、正しい情報を読み取り、それを活用する情報リテラシーが大事になってくると思います。

ます。また、そのためには自分の感性を養うことも重要だと感じます。

さかい: 私はこういう時代だからこそ、人間じゃないとできないことにこだわることでも大事だと思います。学生には生成AIを活用しながらもしっかりと将来を見据え、一生の仕事を見つけてほしいです。

若竹: 私が一番に必要だと思うことは謙虚さです。生成AIは、自分が持っている能力以上のものを出すことがあります。怖いのは使っていくうちに、それを自分の能力だと勘違いしてしまうこと。また、プレゼン発表などをする際、生成AIの出力を自分できちんと咀嚼してい

ないと周りに説明できない。謙虚さを持ちながら伝える力を養うこと。これがAI時代に必要だと思います。

庄山: AI時代を生き抜くには、人間にしかできない能力やスキルを磨いていくことの大切さを話していただきました。感性教育を重視されてきた前学長の梶山千里先生は「感性は、人間性の基礎であり、礼儀や人を傷つけないことが大切」と言われてきました。それはまさに皆さんが話してくださったことにつながっていくと思います。改めて感性教育の重要性を認識しました。自分の感性を磨き、生成AIを正しく活用することが大切です。

庄山: AI時代における感性の必要性について、お考えを聞かせてください。

池上: 感性は必要だと思います。人の感性を知ることによって他者の受け入れがしやすくなり、知らないといつものまにか他者を拒否してしまうのではないのでしょうか。本学は授業の中で自然に感性が磨かれるので、すごく良い環境だと思います。

藤野: 感性は必要です。例えばChatGPTに○○に関するアイデアを10個出して」と指示しても、そこから1つ選ぶのは自分の感性。現状では生成AIが出した結果を活用する過程の中で必ず人間が介入することになるので、感性教育はとても重要です。

若竹: 「感性は必要ない」の方向で考えただけだとやっぱりありえない。感性の必要性として著作権の問題から考えると良いかもしれません。私の専門分野であるデザインや建築の分野で、生成AIで画像や3Dを作成する場合、単純に「家を作る」と指示した場合の著作権はAI側、つまり著作権は発生しない。「4人家族で南側から光が入って動線が良くて…」



など細かい条件を入れると著作権は創作者になるのが現在の解釈です。ただ、条件を与えるには感性を磨いて自分なりのボキャブラリーを増やさないといけないし、相手に伝える力も必要。これを叶えるのが感性だと思います。

さかい: 感性というのは生まれてから死ぬまで、魂がある限りあるもの。芸術の分野でもAIを駆使する場面がありますが、主体はあくまでも人間だと思うのでやはり感性は必要です。

庄山: 私は、生成AIは人間の思考や行動を代替しますが、新しい価値を創造できるのは、感性が豊かな人だと思います。最後にAI時代を生き抜くために大事なことを聞かせてください。

藤野: 「人間の仕事がなくなりそう」とアンケートにもありましたが、生成AIに限らずどんな技術でもそういう懸念は出てきます。そんな中で大切なのはしなやかさと楽観的な考え方。今生成AIはツールのひとつに過ぎませんが、将来AGI (汎用人工知能) が実現すればなくなる仕事が増えるだけでなく、様々な問題が出てくるでしょう。その時に悲観

” AIが人間を超える？  
その不安は「感性」が吹き飛ばす。

● 生成AIはあくまでもツール。人間主体で、未来は便利で明るくなる。



今この瞬間を大切に、  
目の前の人を大切に



INTERVIEWER



(右)  
国際教養学科3年/  
宮崎県立  
都城泉ヶ丘高等学校出身  
かわはた  
川畑 りおさん

(左)  
環境科学科3年/  
鹿児島市立  
鹿児島玉龍高等学校出身  
ながやま ちはる  
永山 千晴さん

富士通株式会社  
人材採用センター  
シニアマネージャー  
たなか ゆうき  
田中 雄輝 様

兵庫県神戸市出身。2006年関西学院大学経済学部を卒業後、富士通株式会社に入社。ビジネスプロデューサー、東京オリンピック・パラリンピック推進本部、内閣官房(出向)、企業スポーツ推進室を経て、現在は人材採用センターにて、新卒採用を総括するシニアマネージャーとして活躍中。

尊敬する父と母との思い出が詰まったサッカー少年だった時代。

—どんな子ども時代でしたか？  
3人兄弟の長男として生まれました。母方の初孫でしたし、父方の孫の中ではほぼ末っ子だったので、両親をはじめ周りにとっても可愛がられて育ちました。ウチは両親が共働きで、私の時代はまだ専業主婦が多い中、父親が家事や料理をよくしていました。ですから私は小さな頃からすごくバツ子で、仕事をしながら家のこともやる父を今でも尊敬しています。休日にはよく旅行やキャンプにも連れて行ってもらって、

—その頃の夢を教えてください。  
今でもそれが良い思い出になっています。小学校の時にJリーグが開幕して私もそこからサッカーをするようになり、中学校までずっと続けていました。その影響で夢はサッカー選手でしたね。中学生になるとフィジカルの面などで差が出るようになって、なんとなく自分では難しいかなと思ってしまうのか諦めていたのですが、(笑)。でも富士通に入社して、富士通サッカー部が母体の川崎フロンターレと仕事することもあり、サッカー選手にはなれなかったけれどサッカーに関することはできました。

言葉がわかれば視野も広がる。日本の良さを世界に伝えたい！

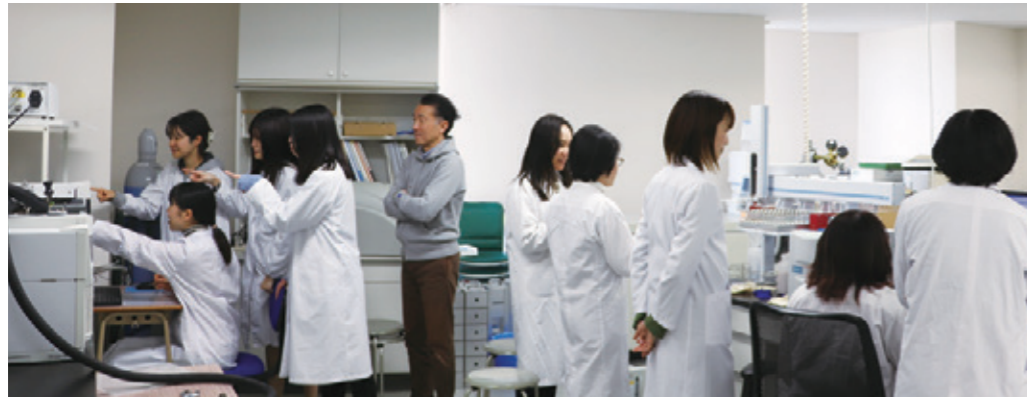
—学生時代にやってよかったこと、やっておけばよかったことはありますか？  
語学はやってよかったと思います。大学では経済学部で国際経済について学んでいて、1年生の時にカナダのバンクーバー、3年生の時にイギリスのオックスフォード大学に短期留学させてもらいましたし、それ以外にも自分で英会話の教室などに通って語学力を磨きました。社会人になって海外出張に行く機会や、外国人の社員との打ち合わせなどがありますが、流暢でなくとも相手が言っていることがわかったり、自分の意見を伝えることができるようになったのは大きな財産です。何事もそうかもしれませんが、語学は今日明日でいきなりできるようになるものではなく、少しずつ身に付けていくことが大切。若ければ若いほど吸収力もあり、感覚も研ぎ澄まされているので、できるだけ早いうちに語学を学ぶとこれからの人生の幅が広がると思いますよ。やっておけばよかったと思うのはゴルフ。入社して最初の10年はビジネスプロデューサーという営業の職に就いていましたが、やはりお客様とのゴルフコンベンションもあるんです。やっている人とやっていない人の差は歴然。今からでも習おうかなと思っています(笑)。

—国際経済や語学、留学など国際関係に興味があったのですか？  
当時の日本は今よりもモノづくりに強いといわれていて、日常でも旅先でもSONYさんやPanasonicさん、車だったらTOYOTAさんなど日本企業のモノが溢れていて、それを誇りに感じていました。そこから漠然と自分も国際社会で活躍できるようになれればと思うようになりました。日本の良いところをもっと世界にアピールして、知ってもらいたい。その架け橋になりたいなと思っています。

—「たまたま」が大きなチャンスに。不思議な縁で決まった入社。  
—将来の明確な目標を決めたのはいつ頃ですか？  
これが本当にたまたまなんです(笑)。大学3年生の夏頃かな？キャンパス内で友人と待ち合わせをしていたのですが、その友人が1時間くらい遅れるということで急にヒマになって…。もう3年生だしそろそろ就活用のエントリーシートの書き方でも練習しようと思習室に行きました。その頃、ちょうど就活サイトなどに登録して就活準備を始めていました。自習室でちょうど富士通のインターンシップの案内メールが届いたんです。締め切りまであと3日！「みたいな感じで(笑)。だから「あ、これ練習にちょうどいいな」と思って応募したのが始



(上)小学生の時、家族旅行で上高地へ  
(下)大学生の時、イギリスのオックスフォード大学に短期留学



研究室での香り分析の様子

大学4年生のとき、たまたま(?)入った研究室で食品の「おいしさ」について学ぶことになった。もう、30年以上前のことです。当時の恩師から、「おいしいとは何か、食べて知ること」が最も重要だと教えられ、その教えを忠実に守り、研究室行事や国内外の学会参加時においしいものを食べ歩き、充実した研究生活を送っていました。この「体験学習」が「おいしさ」を強く意識するきっかけとなり、現在の研究の礎となっています。「おいしさ」の中で、特に「香り」の研究に携わり、本学での研究の一つの柱となっています。

私の専門は「食品分析学」。様々な分析機器を活用して食品成分を分析・解析することを生業にしています。「香り」は複雑。一つの食品から、同時に数百もの成分が揮発(蒸発)して鼻に届き、それらの中に香り・においを呈する(感じさせる)成分が含まれます。微量で臭うもの、多くてもにおいが無いもの、においを嗅ぐ際の濃度でにおいが変わるもの等様々です。単独で悪い臭いがする成分でも、全体の香りに良い影響を与える場合もあり...ほんとに難しい。使用している香り分析装置は2種類、におい嗅ぎGC・MSと超高速

GC(写真)。これらを駆使して、食品の特徴的香り成分を見出し、それがどの程度含まれるかだけでなく、どのような香りでの程度の強さか等を詳細に説明します。研究例を挙げると、ハーブの研究。近年、熊本県南阿蘇地方で、農業や化学肥料を使用しないJAS認定農地での国産ハーブの栽培と製品化が進められています。この国産ハーブと海外産との香りの違いを、機器分析によって「見える化」しています。これにより、国産ハーブ製品が、いかに高品質であるかを客観的なデータで証明でき、国内外での製品展開に強い武器となっています。ハーブでは、お茶の産地として有名な福岡県八女産ハーブの研究も行っています。また、ふりかけ等に利用されている赤シソの研究も行っています。赤シソは、通常露地栽培されていますが、広島県の企業で水耕栽培が試みられています。香り分析により、栽培時期・方法の影響などを検証し、高品質な赤シソ製品の開発に役立てています。「香り」研究では、その他醤油、ドレッシングなど様々な共同研究を行ってきましたが、食品以外にも石鹸、歯磨き粉、化粧品、プラスチック製品など、様々な製品研究にも関わって

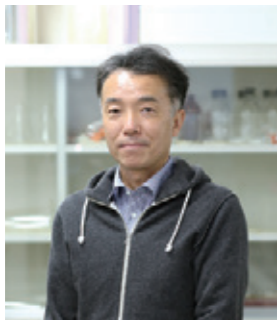
## 「香り」から広がる食品研究の世界

います(何でも屋のような...).このように書く、応用研究ばかりのようですが、実際には、その裏に隠れている現象を「科学的に説明」するために、博士前期・後期課程の大学院生(現在8名)、学部学生、客員研究員が地道に研究に励んでいます。機会があれば、ぜひ研究室を覗きにきてください(大学院希望者、特に待っています)。

食・健康学科 食品学研究室

教授 石川 洋哉

九州大学農学部卒業、同大学院農学研究科食糧化学工学専攻博士課程修了、博士(農学)。九州大学ベンチャービジネスラボラトリー講師(中核的研究機関研究員)、日本学術振興会特別研究員、九州大学農学研究院助手、助教を経て、2009年4月より福岡女子大学。2019年4月より現職。趣味、草野球(最近やれてませんが)、車、現在は息子のバスケ鑑賞。



りです。その書類審査に通って、面接を受けた際に面接官の方と意気投合して、そのままインターンシップに参加。インターンシップは3週間くらいですが、その間は営業のお仕事を体験させてもらいました。大学ではゼミ長をしたり他大学とディベートを行ったりしていて、その際に相手と交渉し意見をまとめるというようなことをやっていたので、その経験がインターンシップ時にも活かされました。

田中さんにぴったりハマったんですね。今思えば不思議ですね。あの時友達が待ち合わせに遅れなかつたら、富士通からメールが来ていなければ、と考えたら本当にご縁だなと感じます。チャンスはいつでもあるかわからないものです。目頃からアンテナを張って、チャンスを逃さずにつかりつかむことが大切ですね。

大切なのは、今の瞬間。プラス思考で何度でも立ち上がる。

好きな言葉を教えてください。

富士通には社員一人ひとりが自分の指針ともいべきマイパス(自己目的)を持っていて、私のマイパスが「今の瞬間を大切に、目の前の人を大切にすること」です。私は富士通に入社してからビジネスプロデューサー、東京オリパラ推進本部のコーポレートスタッフ、その間に内閣官房への出向、企業スポーツ推進室、そして現在の人材採用センターと、とにかくさまざまな仕事を体験させてもらいました。それぞれの仕事内容が全く違うので、今までの経験もあまり役に立たず、人脈もイチから構築しないといけない。最初はどこでも本当に苦労しました。まさにストレスフルな毎日。どうやったら即戦力になれるんだらう?と悩みながら考えていたら、ふと自分が感謝の気持ちを感じていることに気づきました。勝手にピンチになって追い込まれている、誰でもやれる仕事ではないの



にそんなことおこがましいんじゃないか?と思ったのです。そこから出てきたのが先ほどのマイパス。過去を懐かしむのではなく、未来を変えることもない、今の瞬間、目の前にある出来事や人々を大切にすることができるといふことになりました。壁にぶち当たってもマイパスを思い出すことで、立ち上がることができます。

最後に大学生に向けてメッセージをお願いします。

最近の学生はコロナ禍でオンライン授業になるなど、交流に制限があったと思います。でも学生時代は一度きりのもの。この時代に出会った友人は一生ものだと思います。今の瞬間を大切に、これ以上ないくらい楽しんでください。

## My life - 過去の記事 -

117号  
2022.3

日本航空株式会社  
地域事業本部 地域アンバサダー室  
JALふるさとアンバサダー  
リードキャビンアテンダント

坂井 由起子様

115号  
2021.10

株式会社電通九州  
インテグレートッド・ソリューション局  
専任局長 兼 新規ビジネス開発室長

小野 和美様

120号  
2023.9

株式会社 明治 西日本支社  
企画部 食育・エリアマーケティング課  
管理栄養士

小坂 真由美様

116号  
2022.1

株式会社 Q-CAP  
代表取締役社長

藤本 久美様

## 世界歴史探究!

近・現代史のすきまを埋めよう

～ パレスチナ問題を考える ～

近藤 洋平＝文

### はじめに

パレスチナ問題とは、中東のパレスチナ地方で生じている紛争を指す。2023年10月、同地方のガザ地区を実効支配する組織ハマスが、ガザ地区を越え、イスラエル政府が統治する地域に侵入した。そして民間人を含む多くの人を殺害した。ハマスによる襲撃とそれに引き続くイスラエル軍のガザ地区侵攻の報道は、パレスチナ問題の背景、ハマスの情報などとともに、世界中に実時間で配信された。耳目に触れた読者諸賢も多いことだろう。それらよりも有益な情報をこの紙面にて提供できる自信は、筆者にはない。とはいえ中

東地域を研究する一学徒として、以下、一般のパレスチナ問題の背景を、歴史として現地の状況から簡潔にまとめよう。本稿が、日々移り変わる現地情勢を把握するための一助となれば幸いである。

### パレスチナ問題の歴史的展開

パレスチナ問題の直接的な始点として、1948年のイスラエル建国とそれに引き続く第一次中東戦争を指摘することができようが、さらにそこにいたるまでの、特に19世紀以降のユダヤ人(ユダヤ教徒)の動向もおさえることが重要である。

ユダヤ人はヨーロッパや中東などで暮らしていた。ヨーロッパが国民国家形成の流れにあった19世紀において、彼らの中にも、自分たちの国を建設しようという動きが現れた。そしてユダヤ人の発祥の地とされるパレスチナ地方を、その候補地とした。この動きや思想は、パレスチナ地方の中心都市エルサレムにある丘(シオン)の名をとって、シオニズムと呼ばれる。

オスマン帝国の管理下にあった19世紀末から20世紀初頭のパレスチナ地方には、ユダヤ人、イスラム教徒、キリスト教徒が暮らしていた。シオニズムに賛同するユダヤ人や団体は、現地の土地を購入し、移住し始めた。シオニズムに全面的な賛同を示さずとも、迫害から逃れるため、新たな土地での成功を目指すなどの理由で、この地を目

指すユダヤ人もいた。パレスチナ地方はアメリカとともに、19世紀末におけるヨーロッパのユダヤ人の主な移住先であった。

ユダヤ人の移動による人口の急増とそれともなう人口比の変化は、現地の人びとの人付き合いのあり方を変えた。ユダヤ人コミュニティの拡大や土地の買収は現地住民、特にイスラム教徒にとって脅威となり、両者の関係は急速に悪化した。

第一次世界大戦後にこの地域を委任統治したイギリスは、混乱の回避に努めたが、1947年に委任統治の終了を決定する。イギリス撤退後のあり方について、国連はパレスチナ地方の分割を決定する。分割案に対し現地からは拒絶反応も示されるなか、1948年5月14日、イギリスの撤収にあわせ、イスラエルの建国が宣言された。これに対し近隣のアラブ諸国はこの建国を認めず、その翌日に軍隊を派遣した。およそ1年続いたこの第一次中東戦争の結果、イスラエルは当初の分割案よりも多くの地域を占領した。

イスラエル政府は世界中のユダヤ人にイスラエルへの移住を呼びかけるだけでなく、例えばヘブライ語を現代語に作り直して復活させる、町の通りの名前を変えるなどの諸政策を実施し、イスラエルという国家と国民のアイデンティティ確立、その強化に力を注いだ。一方、混乱の中で現地の多くの人が家を追われ、難民となった。ある者は地方内にとどまり、ある者は隣国

などに逃れた。

その後、1967年の第三次中東戦争において、イスラエル軍はエジプトが占領していたガザ地区、ヨルダンが管理していたヨルダン川西岸地区などを占領した。後にイスラエルは2005年にガザ地区全域、ヨルダン川西岸地区の一部から撤退したが、このうちガザ地区は対イスラエル強硬姿勢をとるハマスが実効支配するようになった。そのためイスラエルはガザ地区を封鎖し、ハマスの弱体化を図るようになる。

### 現地の状況

ここまでの内容から分かるように、パレスチナ問題を構成する難題として、土地の扱いが挙げられる。合法的な売買契約によってユダヤ人の手に渡った土地はともかく、イスラエルの建国とそれに引き続く戦争などによる土地からの移動を、もたらしていた人びとは自発的にその土地を去った。一方イスラエル政府は、そこに暮らしていた人びとは自発的にその土地を去ったとの立場にあり、土地接収の合法性を主張している。

イスラエル政府は、占領した土地にユダヤ人を入植させた。国際社会は、第一次中東戦争の休戦協定で設定された軍事境界線、通称グリーンラインを恒久的な国境線とみているが、イスラエルはそれを越えて

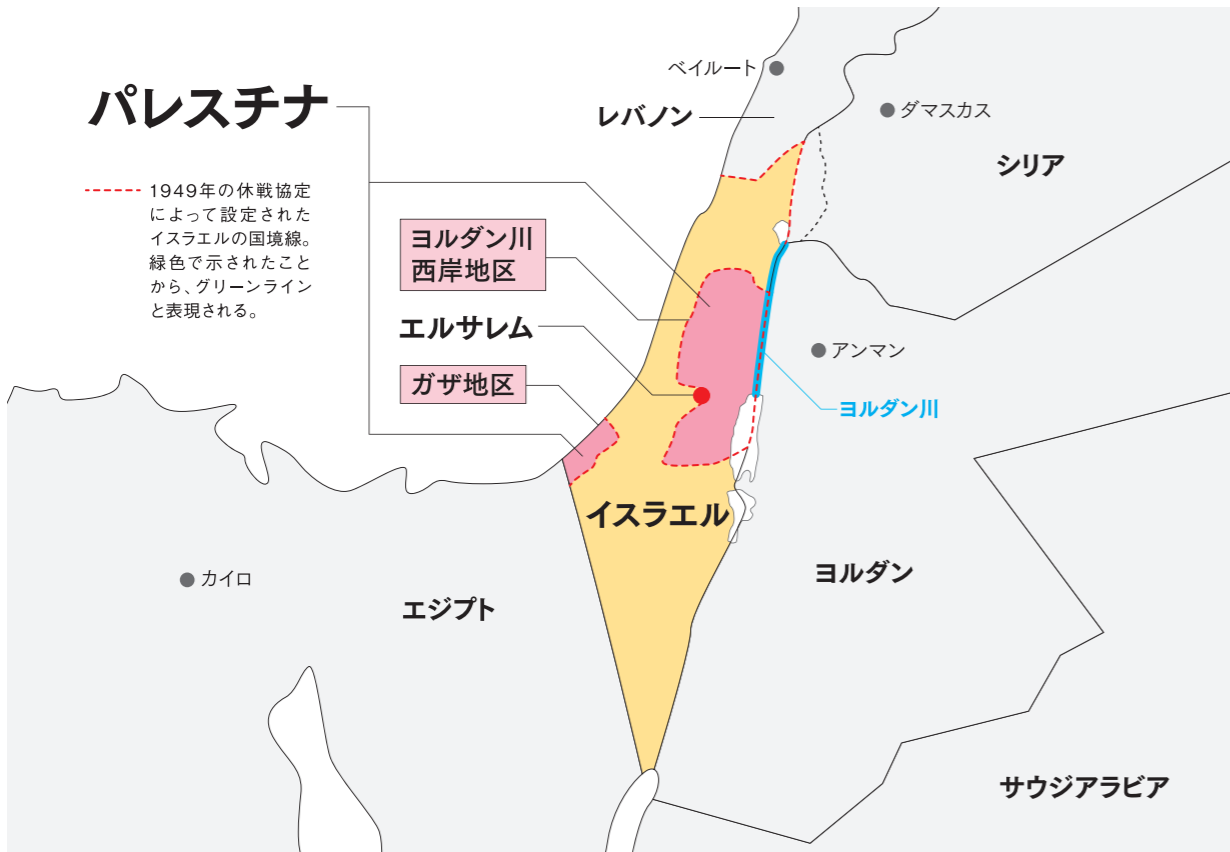
入植活動をすすめている。そして入植者の安全を確保するためとして、「安全フェンス」(分離壁)を設置した。各所に検問所を設置し、人とモノの動きを厳しく管理している。

このほかイスラエル政府は、領内における人口比の観点から、数百万にも上るパレスチナ難民とその子孫の領内への帰還に消極的な態度を示している。ヨルダン川西岸地区やガザ地区に暮らす住民をイスラエル国民とすることについても、イスラエル政府は消極的であるようにみえる。

### おわりに

パレスチナ問題は根が深い。現在イスラエルは地域内で圧倒的な軍事的・経済的優勢を誇る。近隣のアラブ諸国やイスラム教徒が多数を占める諸国は、イスラエルに対して一枚岩の対応をとるわけではない。イギリス、アメリカ、ロシアなども各自の立場から行動している。地域内の問題にとどまらず、国際問題となっている点において、解決が難しいものとなっている。

パレスチナ地方から遠く離れた日本で暮らす我々が、個人としてできることは何だろうか。この問いに対する答えは、様々なものが考えられる。大切なことは、これまでの歴史とともに、パレスチナとイスラエル双方の主張、そして国際社会の立場などを調べ、そこからこの問題について自分な



### パレスチナ

----- 1949年の休戦協定によって設定されたイスラエルの国境線。緑色で示されたことから、グリーンラインと表現される。

### PROFILE [執筆者プロフィール]



国際教養学科 准教授 **近藤 洋平**

主に西暦8世紀から12世紀において、イスラムの教義体系がどのように整備されていったのかを研究している。加えて、19世紀以降の中東地域におけるイスラムの宗派間の関係や、法学的・神学的問題に関する学者や知識人たちの理解や解釈の方法などにも関心を向けている。

### ■ 現地についてさらに知るための図書

- フレデリック・アンセル(著)／鳥取絹子(訳)『地図で見えるイスラエルハンドブック』東京：原書房、2020年
- 白杵陽・鈴木啓之(編)『パレスチナを知るための60章』東京：明石書店、2016年
- 立山良二(編)『イスラエルを知るための62章 第2版』東京：明石書店、2018年

りの意見や考えを持つことだろう。外部からの情報や知識に対して、思考停止をせずに関わり続けること。そのことが、学問や処世において一番重要であると考えている。



8 2023.10.15

福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ演奏会

大野城まどかびあにおいて吉浦勝喜氏の指揮の下、「福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ演奏会」を開催しました。

福女大フィルは2017年に、100周年記念事業の一環で設立されました。100周年イヤーの2023年度は、初の学外ホールでの演奏会を成功させるべく、ご指導の先生方や賛助の皆様のご協力を仰ぎながら頑張ってきました。当日はフルオーケストラやアンサンブルで、クラシック曲やミュージカル曲などを演奏し、観客の皆様から温かい拍手をいただきました。



11 2023.11.02 - 11.04

女性トップリーダー育成研修

本学では、「次代の女性リーダーを育成」を大学の基本理念として、より良い社会づくりに貢献できる人材の育成に努めており、学生だけでなく、社会人女性を対象とした研修プログラムも実施しています。今年度で8回目を迎える「女性トップリーダー育成研修」は、昨年度に「アート思考で未来を拓く、これからのリーダー育成」をテーマとし、これまでの研修成果を活かしつつ、研修内容を「自分起点」を軸に、価値に革新を起こす「アート思考」を柱としたプログラムに刷新しました。24名の受講生は2泊3日の宿泊研修において、企業トップの講話やアート思考に触れ、学びを深めました。1月のフォローアップ研修に向けてさらに自分を掘り上げていきました。



12 2023.11.06

第8回ろうそく能

本学では2011年の国際文理学部創設以来、感性の教育に力を入れており、日本の伝統文化に触れる機会として今年で8回目となるろうそく能公演を実施しました。寮活動の一環として出席した学部1年生、近隣の教育機関や自治協議会の方々等、約200名が来場しました。能の演目は、創立100周年の記念の年にふさわしい華やかな『羽衣』で、国際教養学科のスウェン・ホルスト教授の指導の下、学生有志が司会やパンフレット・投影スライド制作、ロビーの演出を行い、本学ならではの公演となりました。



9 2023.10.23 - 12.28

カリグラフィー作品展『文字の表情～羽ペンから活字書体へ』

秋の特別展として本学初のカリグラフィーの展覧会を開催しました。文字の歴史をたどるコーナーや、学生提案の引用文をプロの手によって作品に仕上げたものなど、総数約70点のオリジナリティのある展示が実現しました。一般向け関連イベントとしては(スタチオポンテ主催者の)初島さつき氏によるトークとデモンストレーション、クリスマスカードを書く体験レッスンを実施、また、貴重な複製本を図書館内で特別展示しました。



10 2023.10.28 - 10.29

第70回かすみ祭開催

今年のかすみ祭のテーマは、「Popping」。コロナ禍で様々な制限があった分、思い切り弾けて楽しく賑やかにという願いを込めました。コロナ禍前のかすみ祭を経験したことのない実行委員の学生達でしたが、試行錯誤を重ね、4年ぶりの通常開催を無事成功させることができました。アートパフォーマー カラリズムリサさんによるオープニングセレモニーのライブペイント、模擬店、サークル等のパフォーマンス、堀田真由さんのスペシャルトークショー等盛り沢山の企画を多くの来場者の方々に楽しんでいただけました。

留学生inかすみ祭

今年のかすみ祭では、留学生達の活躍の場が多くありました。WJC留学生と学生サポーター(JD-Mates)は「ステージパフォーマンス」で、スピッツの『チェリー』を日本語で歌唱しました。また、学部留学生、交換留学生とJD-Matesが共同して、ベトナム、中国、韓国の麺料理の模擬店を出店し、2日間とも完売という盛りぶりでした。練習や準備で苦労もありましたが、留学生にとって思い出に残るかすみ祭となりました。当日お越しいただいた皆様、ありがとうございました。



4 2023.09.21 / 09.25

外国人留学生短期留学プログラム(WJC)秋学期始動

WJC秋学期は、海外協定校(インド、インドネシア、タイ、台湾、マレーシア、アイスランド、英国、クロアチア)の留学生10名と共に始動しました。9月21日に開講式、25日にはウェルカムトリップで留学生とサポーターの日本人学生と一緒に由布院を訪れました。由布院では日本現代美術とデザイン作品を鑑賞したり、起き上がり小法師人形を、日本人学生の助けを借りながら作ったり、来日したばかりの留学生にとって、記憶に残る日本文化体験となりました。



5 2023.09.22

2023年度新任・昇任教員による講演会

2023年度に新たに着任した教員及び教授、准教授へ昇任した教員による講演会を開催しました。今年度は、国際フードスタディセンターの脇坂港教授、環境科学科の藤野友和教授、国際教養学科の朴紅蓮准教授、石神圭子准教授、河原梓水准教授ら5名の教員がそれぞれの研究分野について講演を行い、学内外の約50名の方々にご参加いただきました。



6 2023.10 -

多文化・多言語の子どもたちの学びの場「つながるむ」

日本語教育ゼミの学部生・大学院生が、NPO法人「ともに生きる街ふくおかの会」と協力して、地域に暮らす外国ルーツの子どもたちの学習支援・日本語支援を始めました。毎週土曜日の午前中、中国、フィリピン、ベトナム、ネパールなどから来日して間もない中高生の勉強のサポートや日本語学習の手伝いをしています。また、夏休みには、福岡市国際交流協会主催の「親子日本語教室」にもボランティアとして参加しました。



7 2023.10.01

「東部地域大学連携」の防犯ボランティア活動で表彰

福岡市東区に位置する本学、九州産業大学、福岡工業大学は、「東部地域大学連携」という連携協定を締結し、相互の学生交流、地域貢献活動を行っています。この度、東部地域大学連携の防犯に関する取組み(防犯動画の作成、性犯罪防止キャンペーンをはじめとした防犯ボランティア活動の参加ほか)が評価され、「令和5年度 安全・安心まちづくり県民の集い ふくおか」において、福岡県警および防犯協会からその功労を称え、表彰状が贈呈されました。



1 2023.08.21 - 08.22

『日本って素敵じゃん展』

留学やランゲージ・カフェでの文化交流を通して気づいた、本学や福岡ひいては日本の魅力を外部へ発信しようという学生の発案で『日本って素敵じゃん展』を開催しました。会場は学外のカフェを借り、Z世代ならではの斬新な視点から「画像生成AIに昔話を理解させる」「日本人の“素敵”な遠慮をピクトグラムで表現する」など独自性の高い展示コーナーやワークショップを展開。来場者の多くが体験ブース等でじっくりと楽しんでいました。



2 2023.08.27

西日本の韓国語講師の研修会

駐日本国大韓民国大使館の韓国文化院が主催した「2023年西日本地域韓国語講師研修会」が大阪韓国文化院にて開催されました。この研修会には近畿・中国・九州地域にある大学や国際交流センターなどで指導している先生ら約60名が参加していました。国際教養学科の金希京准教授が講師を務め「日本人学習者を対象にした韓国語教授法～文化教育を中心に～」というテーマで講演を行った後、質疑・応答やディスカッションなどの時間が設けられていました。また講演後には、交流会も開かれ、韓国語教育の傾向や最新情報などが得られる時間もありました。



3 2023.09.20

秋卒業式・秋入学式

秋卒業式・秋入学式を執り行いました。秋卒業式には、学部生3名、大学院生1名が出席し、晴れやかな顔で新たな門出を迎えました。式典終了後にはそれぞれの指導教員と笑顔で写真撮影を行う様子が見られました。秋入学式には、学部生1名、大学院生4名が出席しました。向井剛学長から歓迎の言葉が贈られたあと、入学生1名ずつが自己紹介と入学にあたっての抱負を語り、心温まる入学式となりました。





16 2023.11.25 - 11.26

### 第47回人間-生活環境系シンポジウム

福岡女子大学にて第47回人間-生活環境系シンポジウムが開催されました(大会長:庄山茂子教授、実行委員:小崎智照准教授、笠原優子講師)。78題の研究発表では、「人間-生活環境系」という多様な専門分野の枠を越えた活発な議論がなされました。特別講演や企業展示も企画されました。環境科学科4年生と人間環境科学研究科の大学院生も発表しました。総合司会をはじめ15名の本学学生が大会運営に携わり活躍しました。



17 2023.11.30

### イルミネーション点灯式

キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層交流を深めるため、学生と教職員がプロジェクトチームを組み、イルミネーション点灯式を実施しました。会場は大勢の来場者で賑わい、点灯のシーンでは、カウントダウンに合わせてクラッカーを盛大に鳴らし、キャンパスが桜色のイルミネーションに彩られました。点灯後の第二部も、地域の子どもの元気いっぴいのダンスやサークルの学生のパフォーマンスで盛り上がりました。



18 2023.12.01 -

### 図書館企画展示「西洋書物の美と歴史」

本学美術館にて2023年10月23日から12月28日の期間に開催された、スタチオポンテカリグラフィー作品展「文字の表情～羽ペンから活字書体へ～」にちなみ、西洋書物史における装飾写本の変遷、印刷技術や出版の歴史等に関わる図書を展示しています。時代を超えて受け継がれてきた深遠な西洋書物の世界をぜひご堪能ください。



19 2023.12.23

### 三大学合同ゼミ

国際教養学科の木村ゼミは、福岡大学(東アジア地域言語学科の緒方ゼミ)・九州国際大学(国際社会学科の山田ゼミ)と1年間「日本の中の「韓国」」というテーマで4つのグループに分かれて共同研究をし、12月にその成果を発表しました。テーマも「朝鮮学校」、「榊田神社」、「福岡の中の韓国コミュニティ」と幅広く、質疑応答も活発に行われました。他大学との共同作業は「文化」の違いもあり当初は苦労したようですが、韓国を見つめる視野も広がったようで、各自の研究に良い刺激になったようです。



13 2023.11.11

### 福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」イベント

福岡PayPayドーム横の福岡市保健環境研究所にて、環境科学科の松尾亮太教授が小中学生およびその保護者を含む約40名を対象とした講座を行いました。ナメクジの脳機能に関する約1時間の講義の後、脳摘出の実演も行いました。小学校高学年向けの講義内容でしたが、低学年でもしっかりと話についてくれる子どもたちが何人もいました。実体顕微鏡下の脳に興味津々でのぞき込み、中には持参したナメクジの卵を家に持ち帰りがる小学生もいました。



14 2023.11.13

### 「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト×福岡女子大学」ワークショップ

同プロジェクトは、福岡市を次世代に引き継ぎ、さらに魅力的なまちにしていくなめ、市の将来の方向性を決める新たな「基本計画」を市民と一緒につくることを目的としたものです。

本学で行われたワークショップには学生15名が参加しました。最初に福岡市職員の方から市政概要・総合計画についてのレクチャーを頂いたのち、国際化や環境、まちづくり・交通のテーマごとにグループワークを行い、最後に各グループが考える「理想のまち」について発表しました。



15 2023.11.25

### 香椎浜公民館で小学生を対象にした食育講座

本学の食育ボランティアサークル「しょくぼねっと」では、食育に関する様々なボランティア活動に取り組んでいます。今般、香椎浜公民館の小中学生向け事業「はまっこ塾」に参加する子どもたちを対象に「食育かるた野菜スタンプ」というテーマで食育講座を実施しました。本学オリジナルの食育かるたや野菜スタンプを使った野菜カード作り、クイズ等が行われ、参加者の子どもたちは楽しみながら食や健康について学びました。



### 公益社団法人 日本栄養士会「栄養改善功労賞」受賞

食・健康学科の片桐義範教授が、日本栄養士会の静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士認定の講師・インストラクターを長年担当し、栄養サポートチーム担当者研修会の講師や研修テキスト改訂等にも従事、生涯教育においては基本研修に関する分野を担当し認定管理栄養士・栄養士の育成に携わった功績を認められ、「栄養改善功労賞」を受賞しました。



### 「令和5年度 栄養関係功労者表彰」受賞

多年にわたり栄養士養成に携わり、その功績が顕著であるとして、食・健康学科の舟木淳子教授が、令和5年度栄養関係功労者表彰を受賞し、福岡県知事による感謝状を授与されました。



### 「令和5年度 栄養士・管理栄養士養成施設の教員に対する会長顕彰」受賞

栄養士・管理栄養士の養成に多大な貢献をしたとして、食・健康学科の濱田俊教授が、令和5年度 栄養士・管理栄養士養成施設の教員に対する会長顕彰を受賞しました。一般社団法人全国栄養士養成施設協会会長による表彰状が授与されました。



### 韓国政府主幹 大韓民国環境・エネルギー大賞 学術論文賞受賞



環境科学科の馬昌珍教授は2023年10月、日・中・韓共同国際大気環境学会より論文賞を受賞、さらに第15回2023年度大韓民国環境・エネルギー大賞の学術論文賞にも選ばれました。

大韓民国環境・エネルギー大賞は政府とエネルギーおよび環境に関連する公共機関、企業、学界など、環境・エネルギー分野の様々な主体が参加する最も権威のある賞といえ、2009年から始まり、16回目を迎えます。今回、環境・エネルギー分野で学術の進歩に寄与する優れた論文であることが高く評価されました。

### 舞踏研究部が第59回全九州秋季学生競技ダンス大会にて団体優勝

第59回全九州秋季学生競技ダンス大会において、舞踏研究部が団体優勝しました。男女ペアで踊る競技ダンスは、部内のそれぞれのペアが、仲間であり良きライバルである意識を持ちながら切磋琢磨することで、日々の練習のクオリティをより高めることができます。その成果として今回、団体優勝を手にすることができました。今後さらなる飛躍に向け、力をつけていく所存ですので、応援のほどよろしくお願いたします! ※舞踏研究部は九州大学・西南学院大学と合同で活動しています。





扉の先に未来がある

# 社会で羽ばたく なでしこたち

#9



福岡みらい病院 管理栄養士  
**齊藤 倫子さん**

2017年度 国際文理学部 食・健康学科 卒業

## 生活に一生かわる 「食」を学びたい

「食」は私たちの生活に一生かわるものなので専門的に勉強したいなと思い、福岡女子大学の食・健康学科を選択しました。また、留学生も多く在籍しているため、海外の食文化にも触れることができる良い機会だと思いました。

2015年に参加した「EATプログラム」では、タイ・韓国の学生と2週間ともに過ごしました。世間のイメージというフィル

ターでその国の方を見るのではなく、そんな固定観念を捨て、一人の人として接することの大切さを知りました。短い期間のプログラムでしたが、今でも互いの近況報告をする仲です。日本以外の国に一生の友達ができました。

現在は、回復期病棟の管理栄養士として勤務しています。各疾患に合わせた食事提供・栄養指導はもちろん、鼻や胃からの栄養剤の調整、嚥下困難な方への食事調整など、入院前から退院後の食事のサポートを行っています。勉強の毎日です。

## 学生時代にはたくさんの体験を

社会に出て、自分の知識・力不足を痛感しました。机上の勉強だけではなく、実際に患者さんと接してみないと分からないことばかりでした。一人ひとりの消化機能、疾患、性格、生活状況も異なるため、その方に適した提案をできるように、勉強会に参加し提案の引き出しを増やしています。知識を実践に活かすこと、そして、経験の重要性を感じました。

「百聞は一見に如かず」ではないですが、学生時代はたくさんのご経験を体験してほしいです。声のかけ方など、アルバイトや実習からも得られるものがたくさんあります。時間がある学生時代にこそたくさんのご経験をしてほしいです。



EATプログラム2015タイの学生と ※本人：一番後ろの左

## 福女大生へのメッセージ

学生時代にしかできない体験(バイト・留学・サークル活動・卒業研究・旅行・先生との関わりなど)をたくさんしてください。

そこから得られる経験は今後の生活に必ず生きていくと思います。

大学で得た友人も一生の宝物です。ぜひ、残りの学生生活を満喫してください。



研究室での写真(様々な国の衣装を着てみました)  
※本人：左から2番目

福岡女子大学は、様々な国の学生と密に関わる素敵な大学だと思います。留学生と1年間ともに過ごせる寮生活はなかなかできない体験だと思います。

## 退職者メッセージ

### Beginnt die Eule der Minerva auch hier ihren Flug?



国際教養学科 教授  
**森 邦昭**

在籍期間:  
1988.4.1~2024.3.31

Der letzte Satz des zweiten Absatzes vom Ende in der Vorrede der *Grundlinien der Philosophie des Rechts* (1821) von Georg Wilhelm Friedrich Hegel lautet so: „Die Eule der Minerva beginnt erst mit der einbrechenden Dämmerung ihren Flug.“ Diesen rätselhaften Satz interpretierte ein Forscher wie folgt: In diesem Satz heißt „die einbrechende Dämmerung“ die Krisenzeit Europas, die die französische Revolution mitbrachte. In Krisenzeiten ist die Weisheit der Eulen der Minerva gefragt und die Philosophie Hegels müsste als solche den Menschen in diesen Zeiten helfen können. Übrigens scheint mir, dass man ständig Weisheit braucht, um Probleme zu überstehen, nicht nur in Krisenzeiten, sondern auch in Zeiten des Friedens. In diesem Sinne scheint es mir wichtig, dass die Eule der Minerva auch an dieser Universität ihren Flug beginnt und zwar dass sich alle Mitglieder bewusst sind, dass sie gerade Eulen der Minerva sind. Viel Glück und alles Gute!

### 環境科学科 助教 **鄭 朱娟**

在籍期間:2019.4.1~2024.3.31



### 本当にお世話になりました!

着任し5年間、福岡女子大学の教職員・学生の皆さんから様々なことを学ばせていただきました。今後とも、自身の糧にし、国際的に必要とされる女性教員に成長していきます。御礼とともに、益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 人事消息

[教員] (2023.9.2~2024.3.31)				[職員] (2023.9.2~2024.3.19)					
新任	食・健康学科	助手	原口 翼	2023.10.1	新任	教務企画センター	-	上田 純代	2023.10.5
	食・健康学科	助手	丸石 優紀	2023.9.30		地域連携センター	-	中澤 有紀	2023.11.14
退職	国際教養学科	教授	森 邦昭	2024.3.31	国際化推進センター	主任	平川 春美	2023.12.1	
		准教授	櫻木 理江		地域連携センター	-	西村 可葉海	2024.2.1	
	准教授	藤原 翔太	国際化推進センター		主事	坂本 侑里花	2023.9.30		
	環境科学科	助教	鄭 朱娟		言語教育センター	-		堺 妙子	
	食・健康学科	助手	生田 李緒		地域連携センター	-	日山 道子	2023.12.31	
言語教育センター	講師	Dragana LAZIC	女性リーダーシップセンター	-	岩永 聡子	2023.12.31			
	講師	Paul Lawrence TURNER			弓 洋子	2024.3.19			

# 福岡女子大学100周年記念事業

未来を拓く なでしこの花 一人を育て、知を生かす



## 寄附報告

福岡女子大学100周年記念事業基金へのご寄附に、心からの感謝を申し上げます。

計	件数	寄附額
	1,709件	236,145,776円

(2023年12月31日現在)

## 領収書について

2023年7月1日から2023年12月31日までにご寄附いただいた皆様には、2024年1月末頃までに「福岡女子大学 百周年記念事業基金寄附金領収書」を送付しております。

この領収書は確定申告時に必要となりますので、大切に保管いただきますようお願いいたします。

また、ご寄附いただいた方で、領収書がまだ届いていない方は、お手数ですが、100周年記念事業推進室までご連絡いただきますようお願いいたします。

## 寄附者ご芳名

福岡女子大学100周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大なご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2023年7月1日から2023年12月31日までにご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名のご公表を希望されない方は掲載しておりません。

※本学ホームページにおいて、寄附開始以降、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載しております(ご公表を希望されない方を除く)

### 1 お名前・寄附金額の掲載について ご了承くださいたご寄附者様

※寄附金額別にて掲載させていただきます。  
カッコ内の数字は累計寄附金額です。

100万円	中島 千代子様	(108万円)
5万円	重富 美紀様	(30万円)
3万円	河村 キヌエ様	
1万円	若狭 孝子様	(3万円)

### 2 お名前だけの掲載について ご了承くださいたご寄附者様

※五十音順にて掲載させていただきます。  
カッコ内の数字は累計寄附回数です。

緒方 明子様	(2)	柳瀬 留美様	(5)
平本 邦枝様		若松 國光様	
三角 賀壽子様	(6)		

## 『福岡女子大学百年史』を刊行します

通史編と資料編の2冊1セットで、販売価格は5,500円(税込・送料別)です。

購入をご希望の方は、花書院のウェブサイトまたはFAX(福岡女子大学百年史購入希望とお書きの上、注文セット数、住所・氏名・電話番号を明記のこと)にてご注文ください。

### 花書院

ウェブサイト  
https://www.hanashoin.com  
FAX  
092-524-4411



## お問い合わせ はこちら

### 福岡女子大学100周年記念事業に関すること

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 100周年記念事業推進室  
TEL:092-692-3200 FAX:092-661-2420 E-mail:100th-bokin@fwu.ac.jp

## 編纂の寄り道

### 学生寮のいまむかし

本学では、その前身である福岡県立女子専門学校時代から学生寮が設置されていました。親元を離れて集団生活をする事は不安ながらも新鮮で楽しいものだったと思われます。当時の寮と現在の寮のなでしこ寮とを比較すると異なる点が多くあります。例えば、当時の部屋割りは6畳(約10.94㎡)に3人が基本だったらしく、個人部屋の広さが6帖(約9.72㎡)である現在の寮と比較するとずいぶん窮屈です。また、起床、就寝、入浴、食事時間が決められており、自習時間までも設けられていたそうです。一方、なでしこ寮では、門限と月曜日の夜になでしこナイトがありますが、それ以外の時間は各々自由に過ごすことができます。このように、今と昔で本学の学生寮は変化していますが、家族以外の他者と対話を重ねながら共に生活するという根本的なあり方は変わらないように感じられます。学生寮は発見、学習、成長する機会を日常的に学生に与える学び舎として、これからも大切にしていきたいものですね。



当時の寮生(「専4文(昭和4年3月卒業)アルバム」)



国際教養学科1年  
小松 かりん



なでしこ寮



音楽部主催の音楽会の様子(「専5家(昭和5年3月卒業)アルバム」)

### 学生自治の始まり

福岡女子大学は2023年の4月に100周年を迎えましたが、学生自治についても長く続いております。

最初に校友会が總會と命名され、第1回の總會を開いたのは1924年の7月19日。開校から約1年後という早い段階で作られました。校友会は総務部や、現在のサークル・部活動のような活動を行う音楽部、運動部などを置き、学生の自治活動を行ってまいりました。そして戦後1946年に校友会総務部は自治会創立とともに自治委員会となり、学生大会が開かれるようになり、大学の運営や制度についての学生の意見を大学に伝える動きが生まれました。

現在の福女大には自治会以外にもサークル活動や学生委員など、様々な学生の自主的活動が存在しています。時代も環境も開校当時と大きく変わりましたが、学生たちの自治の精神が受け継がれていくことを願います。



環境科学科3年  
佐藤 菜央香

校友会機関誌  
『あはき』第13号(昭和11年)

